

## ネギハモグリバエ防除に有効な展着剤

安全農業研究所

ネギハモグリバエは、成虫がネギの葉肉内に産卵し、幼虫は葉肉内を潜孔するため、薬剤が卵や幼虫まで浸透しにくい。さらに、ネギ表面には薬剤が付着しにくいいため、より殺虫効果が高めるためには、有効な展着剤の加用が必要不可欠である。アグロスリン乳剤とスピノエース顆粒水和剤について数種の展着剤との組み合わせにより殺虫試験を実施し、有効な展着剤を選定したので紹介する。

### 【普及したい技術のポイント】

- ①アグロスリン乳剤は、加用した展着剤によって殺虫効果が異なり、薬剤単用やクミテン加用では補正死虫率は低かった。その他の展着剤加用では、いずれも補正死虫率は60%を超え、特にミックスパワー加用では補正死虫率は80%近くなった。
- ②スピノエース顆粒水和剤は、いずれの場合も補正死虫率は80%を超え、ネギハモグリバエの幼虫及び卵に対する殺虫効果は非常に高かった。
- ③展着剤（スプレッダー：クミテン）は湿展性を改善する機能を有する。機能性展着剤（アジュバント：ミックスパワー、アプローチB I、スカッシュ）はさらに浸透移行性を高める機能も合わせ持つ。
- ④アグロスリン乳剤の試験において、ミックスパワー等の加用により補正死虫率が高まったのは、アジュバントの機能により効果が増強され、薬剤の成分が葉肉内に浸透した結果と考えられる。

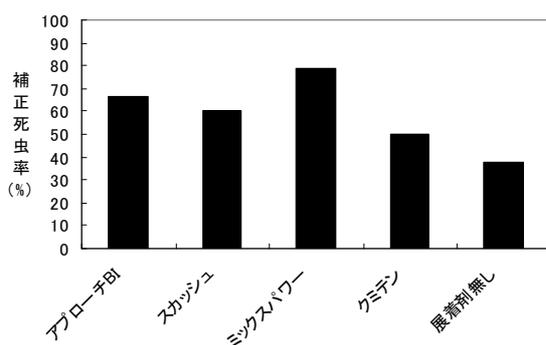


図1 アグロスリン乳剤と各種展着剤加用による殺虫効果

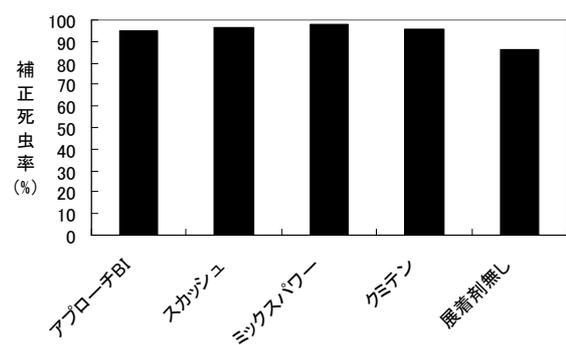


図2 スピノエース顆粒水和剤と各種展着剤加用による殺虫効果